

私の仕事観

外国人技能実習生受け入れに関わる職業紹介事業を展開する中で強く願っていることは、受け入れ先様には外国人技能実習生を「夢を持って日本にやってきた若者」として認め愛情をもつて育成していただきたいということ。言葉で言うのは簡単ですが、この理想と現実の間には距離があるのは事実です。受け入れ先様のご理解を促進していく努力を積み重ねると共に、この理想が「当たり前のこと」と思える文化を地域から根付かせたい。そう考え、地域の若い人々と外国人技能実習生の交流の場づくりなども少しずつ始めています。

外国人技能実習生はじめ国籍の異なる人が

共生しあえる文化を根付かせたい

最近思っていることあり

日本の労働市場の現状と経済の今後を考慮すると、外国人の方に力を発揮していただくことは必要不可欠だと思います。今後は、日本の受け入れ先の方々には外国人労働者の方に「選ばれる」努力をしなければならぬのではないのでしょうか。もちろん、私たちのような監理団体も同様です。その意味で2016年4月の施行に向けて動き出している外国人技能実習制度に関する法律の改正案において、監理団体が許可制となり、検査などが厳しくなるのは正しい方向だと思えます。私たちは、法令遵守はもちろんのこと、法律の本質である技能実習生の保護や育成を具現化させることで、外国人材からも社会からも「選ばれる」存在でありたいと考えています。

Face of

●会社概要

2013年、茨城県を拠点に人材サービスを展開するワークスタッフ(株)などを傘下にするワークホールディングス・グループ(代表取締役 横山聖一)の関連団体として設立。当初は農業6次産業化支援、人材育成(就農支援)、震災復興関連を手掛け、2014年から、これらに加え外国人技能実習生受け入れ事業を展開。代表理事の海外人脈と関連会社の人材ノウハウを活かし農業、製造・建設など多くの分野で技能実習生と企業・自営業者を繋いでいる。海外提携先は、モンゴル、インドネシア、ベトナム、カンボジア等。

未来に向かっ

国籍の異なる人々が互いの違いを認めつつ共生できる社会を創る鍵は、若いうちに交流すること——そう考え、現在の生活拠点であるインドネシア・ジャカルタでも関連組織を立上げ活動しています。インドネシアは中国に次いで日本語を学んでいる人口が多い国。日本語学習を第二外国語として取り入れている学校も多くあるのですが、日本人の先生の数はまだ少ないのです。そこで、日本企業の駐在員の方の奥様を組織化し学校を訪問して日本文化を伝える活動や、地元茨城県の学校との交流も始めていきます。地道にこつとした取り組みを進めていきたいです。



みらいあぐりむ協同組合

代表理事

片庭 慶子

かたにわ けいこ

1977年生まれ。外国人留学生・奨学生との関わりを通じ国際人材交流に関心を抱く。2014年にみらいあぐりむ協同組合代表理事に就任。以後、同組合で外国人技能実習生受け入れ事業を推進する。茨城県国際化推進計画策定会議の委員も務め、昨年からは生活の拠点を置くインドネシア・ジャカルタと日本を行き来する日々。